

2013年3月期 第1四半期決算カンファレンスコール 主な質疑応答（要旨）

Q1

2013年3月期 第1四半期における宅急便の単価下落率は、▲1.7%でした。
このうち、競争によって単価が落ちているということがありますか？
参考資料：スライド6（四半期別宅急便取扱個数・単価動向の推移）

A1

- 宅急便の単価下落率▲1.7%は、貨物構成比の変化による下落ですので、競争による下落ではございません。
昨年第1四半期におきまして、震災の影響により、一時的に増加していた単価の高い個人間貨物の取扱がノーマルな状態に戻ったことや今期、大口法人市場における取扱が好調に推移していること等が下落の背景です。

Q2

2013年3月期のクロネコメール便の取扱冊数（通期予想）は期首予想の2,188,000（千冊）から変わっていません。
第1四半期時点の実績 538,017（千冊）から考えると、達成は少し厳しいようにも見えますが、回復の見通しを教えてください。
同様に、単価（通期予想）につきましても、期首予想の下落率±ゼロから変わっておりませんが、第1四半期時点の実績 前年同期比▲4.7%から考えると、達成は厳しいように思います。
単価は徐々に上昇すると考えてよろしいのでしょうか？
参考資料：スライド7（四半期別クロネコメール便取扱冊数・単価動向の推移）

A2

- クロネコメール便の取扱冊数につきましては、コンプライアンス遵守の観点から昨年9月に本格化させました荷受厳格化による影響が一巡する今年の上期いっぱいまでは、前年対比でマイナスの推移をすと見ております。
- 第3四半期以降は、荷受厳格化の影響も落ち着いてくるとみておりますので、通期予想は達成可能な範囲と見ております。
- 特に、荷受厳格化の影響を大きく受けている小口商流市場におきましては、積極的な営業に加え、封入・封緘サービスといった価値を付加し、お客様の利便性を更に高めることができるよう、取扱冊数の回復に向けて努力してまいります。
- 単価につきましては、第1四半期時点では、平均単価に比べて単価の高い小口商流市場がマイナスで推移しており、平均単価に比べて単価の安い大口法人市場がプラスで推移しているため、貨物構成ミックスの影響で下落しています。

下期以降、荷受厳格化が一巡することで、小口商流市場を中心に回復させたいという見通しから、貨物構成ミックスの影響で下落率も落ち着いてくるだろうと予想しています。

Q3

2013年3月期 第1四半期でのデリバリー事業の人員数はパート社員を中心に前年同期に比べて4,773名増加しています。

一方で、2013年3月期のデリバリー事業の人員数（通期予想）は、期首予想の154,400名から150,900名と、3,500名下方修正しています。

これらの背景を教えてください。

A3

- 2013年3月期 第1四半期におきましては、集配の効率化とお客様へのサービス向上の同時実現を目指したチーム集配を実行していくために「フィールドキャスト」と呼ばれるパート社員を中心に、先行的に採用いたしました。
- 期中における要員計画の下方修正は、通常のことなので、特段の理由はありませんが、第1四半期に採用した「フィールドキャスト」の習熟レベルが徐々に上がってくることによって生産性向上の効果が上がってくるだろうと想定していることや、第1四半期に実施した採用を踏まえ、エリアごとに要員計画を修正していることが主因です。

Q4

2013年3月期 第1四半期でのクロネコメール便の自配率（取扱冊数のうち、自社での配達をどの程度行っているか）を教えてください。

また、クロネコメイトに係わる委託費の動向について教えてください。

A4

- 自配率につきましては、およそ30%です。
- クロネコメイトに係わる委託費につきましては、取扱冊数の減少に伴い、着実に減少しております。

Q5

宅急便の7月度の取扱状況を教えてください。

A5

- 本年の7月は、前年に比べて平日日数が1日多いので、2.0%程度プラスに影響しております。

- ただし、7月はお中元等のギフトシーズンを含んでおりますので、全体の取扱規模が平月の1.5倍程度です。
そのため、伸率は、4月から6月までのおのおの月の伸率よりは低くなるとみております。
- 7月度の取扱に係わるリリースは、8月6日（月）を予定しております。

Q6

宅急便の取扱個数（通期予想）は期首時点より変更ありませんが、備車費（通期予想）は期首時点より10億円増額となっております。
営業収益と営業費用のバランスに少し違和感があるのですが、仮に2013年3月期の営業収益（通期予想）が未達だった場合、営業利益（通期予想）700億円の達成確度はいかがでしょうか？

A6

- 備車費（通期予想）につきましては、足元までの動向を踏まえて、若干保守的にみた上で、10億円増額しております。
- 仮に営業収益が未達だった場合は、売上連動で変動する費用も下がりますので、コストの調整余地がございます。
- 700億円の営業利益の達成に向けて、努力してまいります。

Q7

2013年3月期の設備投資（通期予想）は、期首予想の990億円から920億円と下方修正しておりますが、70億円の減額要因を教えてください。

A7

- 施設の改修見直しを踏まえ、70億円の減額修正をしております。
- 詳細は、補足資料P16に新しく見直した設備投資計画の内訳を記載しております。

Q8

2013年3月期のセグメント別営業収益および営業利益（通期予想）は期首予想から変更してありませんが、ノンデリバリー事業におきまして、上振れ／下振れなど、セグメント毎に業績の特徴がございましたら教えてください。
参考資料：スライド12（2013年3月期 業績予想（3））

A8

- B I Z-ロジ事業、e-ビジネス事業、トラックメンテナンス事業につきましては、概ね計画通り、堅調に推移しています。

- ホームコンビニエンス事業、フィナンシャル事業は、計画対比では若干厳しい状況です。
- ホームコンビニエンス事業は、仮に今の状況が続けば、厳しいのは事実ですが、昨年発生した震災による影響が一巡する8月後半以降、再度業績見通しを精査してまいりたいと思います。

Q9

2013年3月期 第1四半期における海外宅急便事業の収支を教えてください。
参考資料：スライド8（海外宅急便事業の進捗状況）

A9

- 2013年3月期 第1四半期における海外宅急便事業による赤字額は約7億円です。
- マレーシアにおける宅急便事業が新規連結に加わっている事などから、前年同期に比べて約2億円悪化しております。

以上